

2016年8月14日

福音書からのメッセージ

あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか。そうではない。言うておくが、むしろ分裂だ。

(ルカによる福音書 12 章 51 節)

わたしたちは聖書の言葉の中から、自分に都合がよく、心地よい言葉だけを選び取っていることがあると思います。しかし聖書を読んでみると、聖書の言葉は決して耳に心地よく、口に甘いだけのものではないことに気づかされます。

さて、イエス様は今日の言葉をエルサレムに向かう道の途中で語られました。すでに二度、ご自分が十字架によって殺されるということを予告されていました。イエス様は懸命に伝えます。自分に従うとはどういうことなのかを。その中で語られた、「あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うのか。そうではない。言うておくが、むしろ分裂だ」という言葉は、聞いている人を震え上がらせたことと思います。

実は今日のみ言葉を聞く中で、わたしたちが心に留めないとならないところはここです。わたしたちは今、イエス様の言葉を聞いて、その場にいた人と同じように震え上がっていますか。それとも、他人事のように受け取っているのでしょうか。

イエス様のみ言葉は、今も聖書を通して、わたしたち一人ひとりの心に届けられています。しかしわたしたちは、心地よい言葉であればもっと聞きたいと願うものの、厳しい言葉には耳を閉ざしてしまうのです。聞いても頭の中を素通りしてしまう、そのような覚えはありませんか。それらの厳しいみ言葉にも耳を傾けるように、それこそイエス様が今日、わたしたちに与えられたメッセージなのです。



イエス様は言われます。わたしが来たのは地上に火を投ずるためだと。火はすべてを焼き尽くす、裁きのイメージを持ちます。同時に火は清くするものだと考えられています。裁きと清めという二つは、まったく相対する

ものです。火を投じるイエス様はわたしたちに問います。火が投じられたときに、あなたたちはどちらにいいのか。裁かれる側か。それとも清められる側かと。

イエス様は一人一人に対して言われます。わたしに従うか否か。あなたはどうかと。一対一の関係の中で、「あなたはどうするのか」と問われているのです。

わたしたちの決断は、決して簡単なことではありません。何かを捨て、それまでの生き方に背を向けることも意味するでしょう。しかしその決断がなければ、わたしたちは命に結ばれないのです。イエス様に近づくことができないのです。

わたしたちが命を選んだとき、そこに分裂が生じることもあるでしょう。当然です。イエス様は一人ひとり個別に声を掛けられるのですから。しかしわたしは思います。今、離れてしまった人にところにも、必ずイエス様は手を差し伸べられるのです。そのときに、わたしたちがイエス様と共に働くことができれば、どれほどうれいことでしょうか。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>